

## テーマ型募金 令和3年度（令和4年度事業）ふくおか課題解決応援プロジェクト

本プロジェクトは、赤い羽根共同募金の一環として、従来の共同募金運動期間とは異なる1月から3月に地域や社会の解決したい課題や使いみちを明確にし、その課題解決を図るための活動資金を募るために募金活動を行い、地域課題の解決につなげていくものです。（地域課題解決型募金（テーマ型募金））

具体的には福岡県内で活動するNPOやボランティア団体等が、課題解決の必要性や活動内容を住民に伝えながら本会と一緒に募金活動を行い、寄せられた寄付金で課題解決のための活動を行います。

団体にとっては、赤い羽根共同募金という仕組みを活用し、解決したい課題を住民にアピールする機会となり、住民にとっては地域の課題を知り、寄付により課題解決のための活動を応援できる機会となります。県内の地域や社会課題を皆で分かち合い、団体の活動の輪を広げる取組です。（平成28年度から実施）

### （1）実施主体、役割

- ア 社会福祉法人福岡県共同募金会  
寄付金の募集・管理・お礼状及び領収書の送付・配分
- イ 本事業に参加が決定した団体  
配分金使途計画立案・募金活動・地域課題解決のための事業実施  
※ 広報活動については、実施主体が連携しながら実施

### （2）募 金

- ア 実施期間  
令和4年1月1日から令和4年3月31日まで
- イ 募金活動  
団体が行う地域課題や社会課題解決のための活動を、振込用紙付チラシ等を活用しながら、丁寧に説明し、共感や賛同を得るための募金活動を展開

### （3）配 分

- ア 対象事業（テーマ）  
福岡県内（広域）における地域や社会課題解決に向けて取り組む事業
- イ 配分額  
団体に寄せられた寄付金から事務経費等を控除した額を配分
- ウ 事業実施期間  
令和4年7月1日から令和5年3月31日まで

### （4）実施団体（2団体）

- ア こども食堂パープル  
（ア）事業名  
みんなの居場所を知ってほしい！こども食堂啓発事業

(イ) 解決したい社会課題

核家族化や少子化、または多子家庭、コロナ禍による所得の減少など、子どもを取り巻く家庭環境は大きく変化し、また、コロナ禍でより一層、居場所や交流を求め人たちが増えています。しかし、誰もが利用できるこども食堂の一般的な印象は、貧困家庭の子どもを支援するものだと思われる方が多く、こども食堂に関する啓発活動が足りていない現状です。

そこで、5市（筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市）にあるこども食堂の開催場所や開催日時、活動内容を広報し、こども食堂を知り、誰もが足を運ぶことができる環境づくりを目指します。

(ウ) 募金実績額

634,068円

(エ) 配分額

577,002円 ※ 事務経費等（57,066円）を控除した額

(オ) 実施する事業の主な内容

こども食堂のマップ及びホームページの作成

イ かすが居場所づくりネットワーク

(ア) 事業名

社会的孤立解消（産後うつ予防等）プロジェクト

(イ) 解決したい社会課題

新型コロナウイルスの影響により、産婦人科での産前教育が中止となり、妊婦は不安を抱えたまま出産に至っています。また、県外への里帰り分娩も容易ではなく、ワンオペ育児を強いられ、不眠不休で食事もまともにできず、外出も制限される中、社会的な孤立が産後うつの発症率を助長させています。

そこで、5市（筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市）において、バランスの取れた弁当の配食と、地域で開業している助産師による訪問型産前産後ケアを行うことで、子育てに関する不安や心配ごとを解消し、また、助産師を通し、社会と繋がることで、孤立を解消し、産後うつ予防等を行うことを目指します。

(ウ) 募金実績額

232,496円

(エ) 配分額

211,572円 ※ 事務経費等（20,924円）を控除した額

(オ) 実施する事業の主な内容

地域の助産師による産前産後の訪問ケア及び弁当配布